

## 部門別協議会

## 職業奉仕部門

## カウンセラー・アドバイザー

瀬戸 新一 パストガバナー  
 勝野 露観 ガバナー  
 角谷 浩二 アドバイザー

## ガバナー補佐・委員長

松生 満 IM7組ガバナー補佐  
 北岡 満 職業奉仕委員長

## SAA:

三前 剛・阪本 哲次

## 進行:

辻林 俊彦



## 挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 勝野 露観)

職業奉仕部門は非常に大切です。我々は各業界の代表者が集まって組織を作っているわけです。ロータリーの目的に沿って自らを高めて職業を通じて社会に奉仕し貢献するのが、本来のロータリーの在り方です。ロータリーは“I SERVE”が原則で、各々の職業によって人々に喜びを与えることが大切です。

素晴らしいロータリアンとして、また素晴らしい職業人として、現在の大変な不況の中でどう生き残っていくか。そのためにも職業奉仕の考え方は大切です。信用に裏付けられたものでなければ、世の中では通用しません。“SERVICE”はただ単に“奉仕”という意味ではなくて、“人に喜びを与える”という意味です。

職業奉仕はよく勉強すればこれほどわかり易い、またロータリアンや職業人にとって大切なものではありません。どうか手続要覧をしっかりと読んで頂いて、勉強して下さい。

## 次年度活動方針・アンケート結果報告

(次年度職業奉仕委員長 北岡 満)

2009~2010年度地区職業奉仕委員会の委員長を引き受けさせていただきます北岡 満です。皆様と共に2640地区で、職業奉仕委員会の活動を考えてまいりたいと存じます。最初に簡単に私のロータリーでの経歴を申し上げますと、所属クラブは富田林ロータリークラブ、同クラブでの入会は1981年です。

私のような者が地区の職業奉仕委員長を勤めさせていただくのは、本当の偶然で、当初委員長に予定されていた方が急に体を悪くされたため、私が浅学非才を省みずお引き受けさせていただくこととなったものです。

角谷現地区職業奉仕委員長はうわさに轟く名委員長であって、その3年間における業績は、職業奉仕についての著作を含め余人に変えがたいものです。しかし職業奉仕活動を学ぶ者が広く地区には必要と言うことで、私どもに次の委員長をやるようにとバトンが渡されました。身の引き締まる重いです。

村上 2640 地区ガバナーエレクトは、職業奉仕に慧眼な方です。ロータリーにおける職業奉仕の重要性はつとに指摘されておられるところです。私は、村上エレクトに職業奉仕について基礎からご教示いただきながら、皆様と共に次年度職業奉仕について活動したいと考えております。どうぞ1年間皆様と共に職業奉仕について考え、社会の皆様役に役立ち、ロータリーの皆様にも繁栄をもたらす職業奉仕行動をさせていただきたく考えております。各クラブの職業奉仕委員長の皆様のご協力お願いいたします。

以下に具体的な活動を述べさせていただきます。

- 1、ロータリー綱領・四つのテストなどに基づき、当地区の職業奉仕委員会が研鑽し築き上げてきた職業奉仕の理念について、すでに編集された冊子を含めその成果を継承し、新たに就任される各クラブの職業奉仕委員長に理解を求め、各クラブに卓話などで周知してもらう。
- 2、ガバナーエレクトの職業奉仕についてのお考えと、齟齬のないよう意思の疎通に努めたい。
- 3、各クラブ対し、地区委員会からアンケートを出し、次年度において各クラブにおいて、職業奉仕の理念に沿う実践的な活動を地区協議会で提案していただく。

地区委員会としては、今まで各クラブ等で行われてきた職業奉仕の実践活動を例示するとともに、各クラブのロータリアンの職業を通して、各々の職業の価値を高める活動(たとえば各クラブの専門職の方の無料相談など)ができないか、各クラブで検討し提案していただくようにしたい。

又各クラブを超えた、職業人を通じた活動(たとえば障害者などに対する職業支援など)ができないか、いろいろ新たな提案も試みてみたい。

- 4、この未曾有の不況をしたたかに切り抜けておられる実業人を、卓話のスピーカーとして登録していただくなど、会員が互恵精神を持って協力するというプラス思考の活動も取り入れてみたい。

## IM 別討論会

### IM別討論会結果報告

#### <IM1組：白浜RC>

英語の「四つのテスト」をきちんと和訳して頂き、それを我々が統一した見解で理解することが大切だと思います。職業倫理については、自分の職業について責任と自信を持つことが大切です。職場見学については各クラブの会員の減少により難しくなってきたのでIM単位や、また各クラブの職業奉仕委員長同士が連携をとって考えてみてはどうかと思います。

#### <IM2組：御坊RC>

次年度の活動計画について話をしました。企業、事業所見学は全クラブとも行っています。ま

た例会で職業奉仕についての3分間スピーチを行っているクラブもありますし、職業奉仕関係の外部卓話も予定されているようです。学生の職場体験を行っているクラブや、他クラブとの交流も積極的にされているところもあります。四大奉仕部門の活動も大切ですが、会員が減少している状況も踏まえて、やはり親睦も大切かと思えます。

### <IM3組：和歌山RC>

“職業奉仕はロータリーの根幹である”といわれるわりには意識が薄いと思います。もう一度、各クラブにおいて見直す必要があると考えます。「四つのテスト」について、正しく訳されたものを教えて頂きたいという意見がありました。当IM内において、もっと情報交換の場があったら良いと思います。表彰については、よりロータリーをPR出来るような方法を考えれば良いのでは、という意見もありました。

### <IM4組：粉河RC>

本年度のガバナーは職業奉仕、特に倫理や考え方について強調して話をされていますので、非常に良いと感じています。職業奉仕委員会が事業を行うことはもちろん良いことですが、各クラブにおいて会員に職業倫理を啓蒙することは難しいと思います。ですから職業奉仕委員長が段取りをして、例えば地区から専門的な方に来て頂き、職業奉仕についての考え方の理論を身につける、といったことが大切だと思えます。

### <IM5組：松原RC>

次年度の職業奉仕活動について意見を頂きました。職業奉仕についての卓話は多くのクラブがされています。職場見学については遠いところへは1泊で行かれているクラブがありました。職業奉仕についての表彰を行っているクラブでは、小さな会社ではなかなか表彰の機会がない、ということで表彰されています。職場体験学習は地域によって学校からの働きかけがある場合には、会員の企業に募集をかけて行っているようです。私どものクラブでは公開例会を一昨年から実施しており、アンケートでは医療関係の講演会を希望されています。地区への要望ですが、職業奉仕と社会奉仕の違いがわかるようなマニュアルを作成出来ればよろしく願います。

### <IM6組：りんくう泉佐野RC>

「四つのテスト」のきちんとした和訳をご提示頂きたいと思えます。角谷アドバイザーが書かれた“職業奉仕とは何か？”という冊子をもとに、勉強会をされたクラブもありました。次年度の計画では本質的なところに立ち返って、職業倫理の勉強をしっかりと行ないたい、という意見もありました。比較的、女性会員の多いクラブからは、まだまだ入会しにくい雰囲気がありますので、女性特有の職業の方の入会を勧め、このことが職業奉仕にも繋がっていくのではないか、ということでした。

### <IM7組：和泉南RC>

次年度の活動計画について話をして頂きました。週報の中に「四つのテスト」の英文を掲載されているクラブがありました。継続的な活動として、「四つのテスト」の唱和、企業の職場見学、職場体験等の報告を例会にて行う、といった意見がありました。

## ＜IM8組：堺東南RC＞

本年度の勝野ガバナーは「四つのテスト」、綱領の唱和を勧めており、これは非常に良いことだと思います。職場見学は家族会と併せて行っているクラブがありました。学生の職場体験については、頼まれれば今後も行っていきたいと考えています。角谷アドバイザーのお話が非常にわかり易いということで、今後とも卓話等でご指導よろしくお願い致します。

## 総 評

### （勝野 露観 カウンセラー・アドバイザー）

私の年度から「四つのテスト」や職業奉仕を真剣に考えようという動きがございます。「四つのテスト」は職業奉仕の実践版とも言えます。今後は「四つのテスト」の英文も一緒に勉強して頂けるといふことで、大変良いことだと思います。また統一した和訳を地区で考えて欲しい、という要望がありましたのでよろしくお願い致します。

各クラブとも職業倫理をしっかりと勉強しようという気運になって頂き大変嬉しく思います。職業奉仕はロータリーの根幹ですので、しっかり理解をして頂き、素晴らしい方向へと導いて頂きますようお願い致します。

### （角谷 浩二 次期職業奉仕アドバイザー）

本年度は12～13クラブから卓話のご依頼があり、『職業奉仕とは何か?』、『23-34とは何か?』、『「四つのテスト」とは何か?』といった話をさせて頂きました。「四つのテスト」関連では、“今の和訳はおかしいのではないか”と感じています。次年度もご依頼がありましたら、卓話させて頂こうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

### （松生 満 次期ガバナー補佐）

一業種一会員の原則が厳守されていたロータリーにおいては、互惠取引という概念も成立しうる可能性はありえます。しかし、歴史的にみれば、批判もあったことは、皆様もすでにご承知のとおりであります。まして、一業種一会員の原則がくずれた現在、職業奉仕の概念に、互惠取引を持ち込むことは、論外です。会員相互の関係が「ぎくしゃく」する原因を作り出します。

ロータリーができた1905年ごろには、まだ経済社会の自由取引は、正常な姿ではなく、数々の不正が横行していた時代でありました。ところが、それから100年以上たった現在、数々の自由主義社会の自由取引は、数々の法則制により広義での不正取引は、禁止されつつあります。そういう観点からみると、職業奉仕が単なる「法令厳守」の問題として、理解されてしまいがちです。しかし、法令の不備をつく、様々の不正が最近目立ってきております。職業奉仕とは、単なる拝金主義ではなく、社会倫理・道徳に基づく取引を意味するものと考えます。

法律の網の目は粗いが、社会道徳・倫理の目は細かいと言うことを、商取引にあたり、私たちは心に留めておくべきです。



## 部門別協議会

## 社会奉仕部門

## カウンセラー・アドバイザー

前田 孝道 パストガバナー  
 前窪 貫志 パストガバナー  
 笹島 良雄 アドバイザー

## ガバナー補佐・委員長

神谷 尚孝 IM3組ガバナー補佐  
 辻 知昭 IM5組ガバナー補佐  
 谷脇 良樹 社会奉仕委員長

## SAA:

高橋 武雄・稲田 太門

## 進行:

坂東 剛



## 挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 前田 孝道)

現在、大型の不況が世界を覆っています。ロータリーも影響なしで済まされないとありますが、いかなる難関も乗り越えて行かねばなりません。次年度のRIテーマは『ロータリーの未来は、あなたの手の手に』ですが、“この大きな時代の変革の中であって、自らの手の中にあるロータリーの未来をどのように展開していくか”を真剣に取り組んでいく必要があると思います。また次年度の地区の方針『歴史に学び、変革と進歩を』は“温故知新”の心を持たれていると思います。

次年度の社会奉仕委員会の基本姿勢・活動計画はよく考えられて、示されていると思います。1923年に出された声明は年々改正されながら、今日までできております。手続要覧の83ページから社会奉仕のことが掲載されていますが、23-34については5ページ中4ページを費やして語られています。

本日の協議会が意義あるものとなりますことを心から願っております。

## 挨拶

(カウンセラー・パストガバナー 前窪 貫志)

手続要覧の 83 ページから 87 ページまでは熟読願いたいと思います。83 ページにはロータリー色はあまり出ていませんが、23-34 の部分はロータリーの哲学から始まって精神論がかなり入ってきています。現実的には皆さんも、じっくりと手続要覧をご覧になったことはないかと思います。ロータリーはその年度に担当になった分野で理解をして、それを積み重ねていくものだと思います。

村上ガバナーエレクトは次年度、“地震”をテーマにした奉仕活動を考えています。各クラブにおいて“地震”という言葉では取り組みにくいかもしれませんが、“安全・安心”という言葉にすれば簡単に取り組めると思います。目にみえないものに関して取り組む団体は少ないですから、ロータリーが取り組んでみても良いかと考えます。

社会奉仕は地区主導やR I 主導では決してありません。ただ示唆や情報提供は出来ますので、次年度のクラブ委員長会議はクラブ相互の情報交換の場と考えて頂き出席して下さい。地区の委員長会議はパストガバナーや地区委員長の時間ではなく、各クラブの委員長の時間です。各地域のニーズを捉える方法も会議で勉強して頂きたいと思います。皆さんが各クラブへ持って帰るものをしっかりと心に問いかけて下さることをお願い申し上げます。

## ガバナー補佐よりの一言

(神谷 尚孝 次期ガバナー補佐)

私自身、今日は皆様方と一緒に“社会奉仕は如何にあるべきか”を学びたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

(辻 知昭 次期ガバナー補佐)

本日の社会奉仕委員会の資料は“今こそ、社会奉仕活動が求められている時はありません。”という言葉で始まっていますが、私どもの河内長野東RCは以前はあまり社会奉仕活動に力を入れていませんでしたが、ここ数年は力を入れています。“情けは人のためならず”と言われますが、地域での社会活動に力を入れますと、クラブに対しても良い影響が返ってきています。最近40~50歳代のメンバーが入会してくれており、実に生き生きと社会奉仕活動をして下さいます。社会奉仕活動はクラブ活性化のためにも非常に効果があると思います。



## 社会奉仕事業について

(次期社会奉仕委員会 委員長 谷脇 良樹)

皆さん、こんにちは。改めまして本年度に引き続き、地区の社会奉仕委員長を微力ながら勤めさせて頂きます。海南東ロータリークラブの谷脇良樹でございます。何卒よろしくお願いを致します。

ロータリーは、ご承知のように今、カウンセラーの話にもあったように奥が深いもので、次なる一年については、より一層勉強をしなくてはと思うところであり、この深い深い沼を少しでも早く抜け出したいと言う気持ちも、はっきり言ってあります。しかしながら、これから新しい年度にむけて張り切っている各クラブ委員長さん方のよいサポーターとしての仕事を懸命に励みます。

何年か振り、この地にやってきました。かつて、ここに田辺高校があり、向には旅館があった記憶があります。綺麗な、大浜海岸がひろがり、この先から白浜へ行く巡航船が出ていました。今日は、ここに来て子供の頃の思い出が脳裏に鮮明に浮かんで、懐かしさで一杯です。

先日、大阪の天満天神繁盛亭へ落語を聴きに行く機会があり、行って来ました。若手からベテランまで色々な落語家が出てきましたが、そのいずれもが、最初「マクラ」といって、少し小話や昨今の時節の話をしてそれから、その反応を基にして本題に入っていきます。10人10色と言うように各々がみんな持ち味を出して観客を話に引き込んでいくところは、流石プロだなあと思うところでありました。笑う門には福来ると言うように皆さん方も、まず持って笑顔で新年度をスタートして下さい。

ここにおられる前窪パストガバナー、笹島アドバイザーとは、休日によくゴルフ場でお顔を拝見する先生方ですが、ゴルフもキャディーさんの言葉をよく聞き、同伴のプレーヤーの行動をよく見てプレーすることがベストプレーに繋がります。

皆様方におかれましても、あまり我を通して一直線に行くよりも硬軟とりまぜて、その使命を果たしてくれることをまず、最初にお願いするところでもあります。地区委員会と言うのはあくまでも「潤滑油」であり、目配り、気配りの存在です。各々のクラブ、皆様方のクラブの委員会が主体であることは言うまでもありません。

昨今問題になっております社会奉仕に関する声明、所謂23-34の決議について、又社会奉仕に対する心構え等々は、先ほどの前窪カウンセラーの話にもあり、それにガバナー月信の4月号の勝野ガバナーによる説明がされております。今日お帰りになりましたら、またご持参していれば是非、一度読んで下さい。私の方は手続要覧のような話は出来ません。

かつては、大学教授や、ロータリーをこよなく愛し、深く研究されている方が、この委員長をしておられ、その時代の議事録等々を拝見して一歩下がった記憶がありますので、肩の凝らない平易な文章で資料を作成しております。まさしく、それでありました。私、前段申し上げましたように奉仕をするには、笑顔とハートが大切であると思います。この暗いニュースが多い時代に暖かい心を持ってする奉仕活動は世間がわかってくれると思うのです。

3月は識字率の月間でした。毎年のごとく皆様方には暖かいご協力を頂き改めましてお礼申し上げます。次なる年も変わらぬご協力を、この場をお借りしてお願いいたします。



ダメ・ゼッタイ運動、レッドリボン等々のご浄財を頂くことばかりで恐しくしております。ポリオ、エイズ、はたまた新型インフルエンザと気の休まることはありません。でも、その根絶と抑止、予防に我々ロータリーの力は、欠くことの出来ないものだと思います。なお一層のご協力をお願い致します。

ロータリー 100 年の森林、ここに当時のガバナーの前窪カウンセラーもおられますが、この春、高野山の現地を見て参りました。この後、笹島アドバイザーから話もあるのですが、これも、色々工夫を凝らして風化させず進化するように努めねばと思っていますところ。今、話題の環境問題も含めアドバイザーにはよろしくお願ひします。

次年度、村上エレクトの要請といったら語弊があるかも知れませんが、防災問題（地震）について地区でと言う話があり、私どもは、各方面と接触をして色々考えました。県庁、自衛隊、警察等々ですが、これも地域にある各クラブが一番、その土地勘もあり、よく理解しているところであり、地域のリーダーとして、もしもの時の担い手となって、そのために社会奉仕はと言うところなのです。防災に対しての卓話の斡旋やクラブフォーラム開催時の協力等々全面に尽力をするものであります。地域がかかえている問題を含めて、是非ご協力をお願い致します。他にも、この 2640 地区、大阪は大和川から以南、紀伊半島の新宮市まで、約 250 Km の沿線に渡って本当に必要とする対策等々が山積しているはず。その一つ一つをカバーすることは難しいかも知れません。とりあえず、やれることをやってみては！地区社会奉仕委員会は、その原動力の各クラブの委員長さんの後ろ盾として、がんばる所存です。どうかこの一年、ご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願ひして、社会奉仕事業についての話を終わります。

## 環境保全について

(次期社会奉仕アドバイザー 笹島 良雄)

高野山の「ロータリー 100 年の森林」についてですが、国際ロータリーの 100 周年記念事業として、高野、熊野の世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」周辺の森林保護に手を貸し後世に残そうと、2640 地区の有志（66クラブ）が立ち上がりました。

### 1. テーマ

- ① 高野、熊野の世界遺産の森林保護に手を貸そう。
- ② 世界遺産の荒れた山に美しいロータリー 100 年の森を作ろう。

### 2. 趣 旨

和歌山県内の「紀伊山地の霊場と参詣道」は「高野山」及び「熊野三山」という二つの霊場と参詣道として「高野山石道」「熊野参詣道」及び「大峯奥駆道」から構成されている。その周辺にはバッファゾーンと呼ばれる地帯が設定されている。「ロータリーの森林(もり)」はこの地帯の周辺を豊かな森林資源を育成し、私達の子供や孫達の為に美しい森を残そうとする。

### 3. 募金額と植樹数

第1次、2次、3次の合計金額は 2,424 万円

植樹総本数 2,424 本

国有林なので借地面積 3.1 ヘクタール（パートナー 県緑化推進会と協働）

### 4. 植樹の種類

- ① ヤマザクラ (650本) 春に花が咲く樹種。
- ② コナラ (400本) 夏に昆虫採集が出来る樹。
- ③ クリ (574本) 秋に実が(食用)なる。子供が楽しめる。



- ④ イロハカエデ（450本） 紅葉がきれい。  
 ⑤ ケヤキ （200本） 枝張りが良く、冬の落葉の季節がきれい。  
 〈会員の皆様が四季折々訪れ、楽しめる様に。〉

## 5. 管 理

下草刈り、補植、除伐作業等、森林組合と緑化推進委員会と連絡し乍ら実施している。

## 6. 募金の運用

推進委員会に委託し、定期的に残金のチェックを実施している。

以上です。

## 提出書類の説明

（次期社会奉仕委員長 谷脇 良樹）

この地区協議会終了後に各クラブ宛てに、“クラブ社会奉仕事業についてのご連絡お願い”という事でアンケートを提出お願いします。過去に行った事業でも結構ですが、クラブで一押しの社会奉仕事業や、次年度に予定されている皆様方に知らせたい事業等を書いて頂きたいと思えます。次に防災対策について、会員意識、地域のニーズ、ロータリーとして行える活動なども記載して下さい。以上、6月30日までにお願いします。それを当委員会で検討し、8月22日のクラブ社会奉仕委員長会議の時に、いくつかのクラブに発表して頂きたいと考えています。

## ご意見を頂く時間

（次期社会奉仕委員 坂東 剛）

Q：当クラブは次年度、“チーム マイナス 6パーセント（環境省の外郭団体）”への参加を考えていますが、定款上は問題ないでしょうか？ （御坊東RC）

A：手続要覧の85ページに載っていますが要は、クラブにその意思があればオッケーです。（前窪パストガバナー）

Q：環境保全委員会が地区では無くなったということですが、ご説明をお願いします。（羽衣RC）

A：具体的な経緯は聞いておりませんが、「ロータリー 100年の森林」が軌道に乗って落ち着いたので、当地区では具体的な活動が難しくなり、社会奉仕委員会が統合して行うことになったと思えます。（笹島次期アドバイザー）

Q：「ロータリー 100年の森林」についてですが、勝手に行って栗の実を自由に採っても良いのでしょうか？ （岩出RC）

A：ロータリーのバッジを付けて行って頂くとうよろしいかと思えます。（前窪パストガバナー）

Q：「ロータリー 100年の森林」の維持・管理に掛かる費用は、当時集められた残金で行われているのでしょうか？ （有田 2000RC）

A：補植、伐採等の費用として年間約60万円かかりますが、その費用は当時の寄付金の中から使っています。あと7～8年分は大丈夫かと思えます。（笹島次期アドバイザー）

Q：「ロータリー 100年の森林」に植えられたヤマザクラの種類を教えてくださいたいと思えます。またヤマザクラを多く植えますと回りの木が育たなくなりますので、そのようなことも考慮

されているのでしょうか？

(田辺東RC)

A：今後、調べましてお答え致します。

Q：地区の方ではどのような防災対策をお考えでしょうか？

(和歌山西RC)

A：防災は地域に根ざした対策が大切ですので、それぞれのクラブで出来る防災を考えて頂きたいと思います。

(谷脇次期社会奉仕委員長)

Q：実際に地区内での災害に対して、救助活動等が出来るのか疑問に思いますが、いかがでしょうか？

(和歌山西RC)

A：実際問題として災害時にどのようなケースがあるかはわかりませんので、具体的に計画するのは難しいと思います。しかしまずは地区として防災対策に取り組む意向があることを示したいと考えました。アンケートにお答え頂いて、それを基に次回の委員長会議において発表して頂き、今後の参考にして頂きたいと思います。

(笹島次期アドバイザー)

A：ロータリーでまず取り組めることは、心構えだと思います。そして地域社会に防災意識を浸透させていけるようなアイデアを、皆さんから頂戴出来ればと思います。

(前窪パストガバナー)

A：“稲むらの火”という大地震の被害を未然に防いだ有名な話があります。和歌山の人には東南海・南海地震に対する意識があると思います。したがって地域社会のニーズに対する活動としては、災害に対する心構えに関する専門化の話聞く、といったことだけでも非常に意味があることだと思います。

(前田パストガバナー)

本年度のRIテーマに基づき、今年は子どもたちを対象にスポーツ振興としてロータリーカップを開催しました。

(河内長野東RC)

## 総 評

(前田 孝道 カウンセラー・アドバイザー)

本日は実りある会合になったと感じています。次年度、皆様方はロータリーの中核にあって大変大事なお仕事を担って頂くこととなりますが、RI会長やガバナーの思いを心として、立派な運営に寄与されますことを心よりご祈念申し上げます。

(前窪 貴志 カウンセラー・パストガバナー)

皆さんにご期待申し上げます。時間が余りましたら委員長に差し上げたいと思います。

(谷脇 良樹 次期職業奉仕委員長)

私どもの意図するところが皆様方に届いているかどうか、説明不足で申し訳ありません。皆様方の住まわれている所で何が必要なのかを考えて頂き、それに対してロータリーがお手伝い出来ることがありましたら進めて頂きたいと思います。この数年はエイズ問題にも取り組んでいますが、変革の時期を迎えているようにも感じています。まだ次年度の活動計画をお作りになっていないクラブもあるかと思っておりますので、本日の内容も踏まえて、実りある1年にして頂ければと思います。

## 部門別協議会

## 新 世 代 部 門

## カウンセラー・アドバイザー

楠 公延 パストガバナー  
 平原 祥彰 パストガバナー  
 瀧 成和 アドバイザー

## ガバナー補佐・委員長

山本 正明 IM5組ガバナー補佐  
 丸山 信仁 青少年・ライラ委員長  
 中西 秀文 ローターアクト委員長  
 竈 和夫 インターアクト委員長

## S A A :

寒川 真典・伊賀 久記・竹内 正巳

## 進行 :

丸山 信仁



## 挨 拶

(カウンセラー・パストガバナー 平原 祥彰)



新世代部門は手間が掛かり、お金も掛かり、道は遠いという噂があるかもしれません。進んで新世代部門の活動を行うクラブは少ないのではないのでしょうか。すでに活動を行っていても撤退したいというところがあるようです。我々の活動で青少年部門はどういう位置づけかということ、“我々の未来は青少年である。”ということが言えます。自分の意見を持った、しっかりとした青少年を育てることが大切です。自分達の子どもの同様に青少年は宝物ですから、ロータリアンとして青少年の育成に関わっていく必要があります。

先日の5月の連休に青少年海洋センターにおきましてライラが開催され、瀧委員長は委員長として獅子奮迅の働きをされました。60名以上の参加者とそれ以上のロータリアンにも参加して頂きました。充実した内容を考え、事故も無く立派な成果を挙げて3日間のプログラムを終了するという事は、そばで見ているよりも実際は大変です。委員長以下、委員の皆様等の熱意が成功に導いたと思います。

本日は皆様方の青少年についての熱心な討論、討議を期待しております。

**青少年・ライラについて**

(次期青少年・ライラ委員会 委員長 丸山 信仁)

2009－2010 青少年ライラ委員会委員長をします。御坊クラブ丸山信仁と申します。宜しくお願ひします。

4年前に今期地区代表幹事桃田様の時に初めて地区役員（職業奉仕）をさせて頂き3年間職業奉仕の勉強を致しました。今年度青少年・ライラ委員をさせて頂いています。ロータリーに入会して22年立ちますが、この4年間でロータリーの良さを再認識致しました。私は17年間ソフトテニスを指導してきました。そこで感じた青少年の問題を皆様と一緒に1年かけて勉強していきたいと考えていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

皆様に少しご質問を致します。

**1. ライラをご存知の方**

青少年指導者養成プログラム

**2. ライラに参加した事のある方**

ライラ研修会ではチームを作り、そのチームの中における自分の存在感を示し、与えられた討論テーマに対して自分の考えをどう表現し反映させるか、を体験させ、討論を通して研修メンバーのリーダーシップを引出す事、そしてチームワークを自然形成させるリーダーが現れ、「役割分担を指導する能力」が発揮される事を期待しています。

**3. 皆様のクラブで青少年のプログラムはどのようなものでしょうか**

私は青少年の事業にもっと力を入れるべきだと思ひます。

昨年全国青少年育成委員会に参加した時のことですが、ロータリーらしい職人（職種）の素晴らしさを青少年に伝えて頂きたいと思ひます。例えば中学生の職場体験、高校生のインターシップ又出前講座の取り組みなど職業の大切さを青少年に伝えていきたい。

第28回青少年・ライラ研修会を今年度は、5月2日・3日・4日の3日間の日程で大阪府海洋センターにおいて開催致しました。メインテーマは「豊かな人生を築くには」で、研修テーマは地球に優しい生活を考える「エコに生きることで未来の地球を守ろう」でした。米山奨学生・インターアクト・ローターアクトの協力のもと、約80名の研修生で開催致しました。

村上ガバナーエレクトから田辺の地でライラセミナーを開催できないかと言うお言葉を頂き、第29回ライラセミナーは長年使用した大阪海洋センターから離れ、日程も3月20日・21日・22日の3日間で地元田辺市元町目良の元島館で開催予定です。メインテーマは「人生の目標」です。色々なプログラムを委員会で検討しています。詳しくは8月29日（土曜日）紀南文化会館で開催する地区新世代部門委員長会議でご説明させて頂きます。出来るだけ田辺の歴史・風土を感じて頂けるライラセミナーを開催したいと考えています。IM1組のライラキーマンのご協力のもと、より良い研修会を開催致しますのでご参加、ご協力をお願いします。

6月中にアンケートに記入の上、ガバナー事務所へ返信をお願いします。

大阪府内・和歌山県内の「中学生の主張」の大会に協力を行っていききたいと考えています。

## ローターアクトについて

(次期ローターアクト委員長 中西 秀文)

本日 73 クラブ中 58 クラブが出席されていますが、この中でローターアクトについてご存知の方は何人おられるでしょうか。

### 「歴史」

ローターアクトは、その短いながらもダイナミックな歴史の中で急速に発展してきました。1960 年代の初頭、世界各地のロータリークラブが社会奉仕プロジェクトとして大学レベルの青少年グループの提唱を開始しました。1967-68 年度の R I 会長「ルーサ H・ホッジス」氏と R I 理事会は、このクラブ活動に国際性があると考えました。その結果、1968 年、ローターアクトはロータリークラブの公式プログラムとして承認されました。1968 年 3 月 13 日付で最初に承認されたクラブは、アメリカ・ノースカロライナ州のノースシャルロットローターアクトクラブでした。

数十年後、ローターアクトプログラムはローターアクトクラブの強力な国際的組織に発展し、150 カ国以上およそ 7,300 クラブを擁するまでになり、会員数は 14,500 名の会員を有する様になり、その後、クラブ数の増減はありますが、現在に至っています。残念ながら日本ではロータリアンと同様、減少傾向にあります。

2640 地区では、1969 年に有田ローターアクトクラブが最初に誕生しています。(今年で 40 周年を迎えます)

### 「目的」

ローターアクトはアーターアクションの略語です。ローターアクトクラブは 18 歳~30 歳までの青年男女の集まりで、ロータリークラブによって作られたので、奉仕の精神が共通の理念です。そして次世代を担う若者の自己の知識や能力を高め、地域社会への奉仕や国際的な理解を深めることによって、お互いの親睦を深めて、ひいては世界平和に貢献する団体で、言い換えれば、例会や各クラブ行事、地区行事などを通じて、すなわち専門知識開発、指導力開発、奉仕プロジェクトの 3 つのローターアクトプログラムの力を借りて、若い人々が責任感のある社会の一員となるために必要な手段と技能を身に付けることが出来ます。新世代の若者に、自分自身の力を試し、新しい技能を開発し人生の中で直面する問題に立ち向かうよう促す事、すなわち、ローターアクトプログラムはローターアクトに、将来の世代に伝えることが出来る生き方を教えるものであります。又、同時にローターアクトプログラムにより、ロータリアンは、地域社会と世界平和への奉仕に関心を抱く活動的な若者を指導する機会に恵まれます。その代わり、ローターアクトクラブはロータリークラブに新しい活力をもたらし、奉仕の斬新なアイデアを提供し、プロジェクトの支援を増やしたり、ロータリークラブの将来の会員の育成に繋がります。

ローターアクターは、提唱クラブの奉仕パートナーとして協力し、ロータリーファミリーの重要な一員となっています。

### 「現状」

現在、日本では、全国でローターアクトクラブ数は 369 クラブ、会員数は約 3,800 名です。2640 地区のローターアクトクラブは会員数 73 名(男性 36 名、女性 37 名)で若干、増減がありますが、去年は約 106 名でしたので、約 33 名の減少です。(10 年前は約 200 名)ク

クラブ数は11クラブで、3つゾーンに分かれています。第1ゾーンは堺RAC・泉大津RAC・岸和田RAC・泉佐野RAC、第2ゾーンは松原RAC・富田林RAC・河内長野RAC、第3ゾーンは和歌山RAC・海南、海南東RAC・有田RAC、御坊RACです。

提唱ロータリークラブは12クラブです。私どもの、海南、海南東RACは1993年創立で、次年度で17年経過することになります。

この16年間、新しいRACは出来ていません。20代の時の自分を振り返ってみると、奉仕活動について考えたことは、殆どなかったと思いますし、一般の若者も殆どそうだと思います。そういう年代にローターアクターは日ごろ「ロータリーファミリー」の一員として、私達の手の届かないところで奉仕活動を通じて世の為、人の為になることを実践しています。例えば、具体的にクラブ行事として、「会員増強パーティー」「市民祭・夏祭への参加」「老人ホームの訪問」「養護施設への行事参加」「養護学校で子供達とのカレー作り」「国道の清掃作業」「盲導犬協会への寄付」「ロータリアンと共同で献血活動」「ロータリークラブと一緒にエイズキャンペーン運動への協力」「留学生との親睦活動」「プルタブを集めて車椅子寄贈」「ペットボトルのキャップを集めて（ポリオへの協力）」「アルミ缶集め」「空き缶の回収」「JCと一緒にイベントに協力」「インターアクターと合同クリスマス会」「高野街道の道標作製」「フリーマーケットへの参加」「海岸の清掃活動」「地元のお祭りに出店とお手伝い」「他クラブとの交流会と合同行事」など、他にも沢山の活動をしています。その活動を見るにつけて、いつも感心していますし、エネルギーをもらっているわけです。また地区行事は後でお話します。

2640地区のガバナーは新世代に力を注ごうということで、非常に理解を頂いて、青少年は全ての人々の未来で若い人たちの為に応援しなければならないということで、いつもバックアップしてくれていますし、新世代の活動はロータリーらしい有意義な活動として評価してくれています。次年度の村上年度では和歌山県南部に新しく、ローターアクトクラブを作ろうと話をしています。本当にありがたいことだと思っています。

次に基本姿勢について、お話ししたいと思います。全国的にローターアクトクラブの減少、クラブの会員数の減少がみられますが、一部の地域を除いて改善・発展に至っていないのが現状です。当地区でも、クラブ数が10クラブとなり、会員も毎年、減少しています。ローターアクト活動について色々と広報活動等、努力していますが、なかなか増強出来ないというのが現状です。ただ、当地区のローターアクターは少ない人員でも日々努力と研鑽を重ね、1年間を通じて地区行事や各クラブで奉仕活動をしています。そばから見ていましても本当に良く頑張っているなあ。というのが実感です。そういう姿を見るにつけ「ローターアクト活動に対するロータリアンの責任と役割」について真剣にディスカッションをして、ローターアクトクラブの活性化に繋がっていきたいと考えています。

また「ロータリー家族」の一員として、私たちの手の届かないこと、世の為・人の為になることを日々実践している次世代を担う若者を育てることが、ロータリーの崇高な理想を実現するためには必要なことであり、ロータリアンの務めだと考えます。当地区のローターアクトクラブは17年間、新しいクラブが誕生していません。今期は新しいクラブが発足するよう努力したいと考えていますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。



ターはスピーチを初め人間的にも驚く程、成長しますので、ローターアクト本人の口から、世の為、人の為に何かしたいという言葉が出て来ます。その時、本当に関わってよかったと思う瞬間です。

今後の課題として、会員増強の問題があります。18歳～30歳という年齢制限があるので、必然的に増強しないと自然減になってしまいます。ローターアクトの活動を知ってもらう為に活発に広報活動をし、ロータリアンには活動を今まで以上に知ってもらうことが大事であると考えていますし、次年度は2640地区の各クラブにローターアクトの活動を紹介して、近隣のローターアクトクラブに若者を是非、紹介してほしいと考えていますので、よろしくお願いします。

またローターアクトクラブは、ロータリークラブが作ったということからも親子の関係ですので、無関心というのではなくて、それから皆でどうやって、一生懸命、育てていくかということと、応援していくことが大事であると思っています。今後、益々充実した活動ができるように奉仕のパートナーとして、ご協力の程よろしくお願いします。

## インターアクトについて

(次期インターアクト委員長 竈 和夫)

私は以前、堺のローターアクトを立ち上げたメンバーの1人です。その当時は中心になる人が努力してはじめて立ち上げることが出来たと思います。皆さんには地域の活動をもっと知って頂きたい。インターアクトクラブも少子化の影響で減ってきました。また学校法人も教育と経営が合い入れないところもあるかもしれません。大きな大学法人が私学を飲み込むような形で、経営の一体化を進めてきています。大手の大学では中高一貫ではなくて大学へのエスカレーターで、学生を大学の組織の中に組み込もうと考えているようです。幼稚園から大きな大学の傘下に収めるような形になっています。

ロータリーの教育に関する考え方は決して、学校経営と合い入れないものではないと考えています。もっと皆様が地域の中に入って行って頂いて、青少年育成について理解して頂くことが大事だと思います。

次年度の委員会の運営方針を「ロータリーの原点に帰ろう」とさせて頂きました。飛翔館高校が近畿大学の傘下に入り、今3年生の学生が卒業しますとインターアクトクラブは無くなります。初芝富田林高校、初芝堺中学校も立命館大学が経営母体になりました。インターアクト提唱クラブが更に学校法人、先生方の中に入り込んで、ロータリーの青少年育成としてどのようなことが出来るかを示していかなければなりません。

事業計画ですが、インターアクト委員会・顧問会議の中で年間行事予定を作り、担当のインターアクトクラブも決めています。12月の海外研修は新型インフルエンザの問題もありますが、韓国を予定しています。国際交流の始まりは、先ず隣国理解と考え歴史、文化の交流ということでプログラムを進めます。現韓国大統領がソウル市長時代に手がけた事業（清溪川の復元、ソウルの森等）を基に、環境問題についての研修を考えています。また韓国のロータリーとの交流も企画致します。



## 質疑・応答

Q：私自身、人に物事を教えるなんておこがましいと考えています。ライラを、ロータリアン自らの人生を見直せる機会になるような企画にされたら良いかと思えます。(有田 2000RC)

A：ライラは毎年テーマを掲げています。そのテーマを教えるのではなくて、一緒になって勉強し、討論することが大切です。そして討論の結果を発表して頂くのですが、そこまでに至る経過が大事です。ライラは指導者養成プログラムですが、意見を交換するというを経験してもらいます。その意見交換の場にロータリアンも入って頂いても結構ですし、若い人の中に入ることを味わって頂きたいので、出来るだけ多くのロータリアンにも参加してほしいと思えます。

(瀧次期アドバイザー)

Q：インタラクティブ委員会の事業計画の中の海外研修についてですが、“歴史・文化の交流”とありますが、具体的に教えて下さい。(橋本RC)

A：韓国との歴史の交流には不幸な時代もありました。しかしもっと前からでは、百済との交流では聖徳太子が窓口になり、大陸文化を日本にもたらしました。その時代IIの交流を正直に捉え理解することにより、今後の交流発展に繋げていけるのではないかと考えます。また韓国の教育事情は日本に勝るとも劣らないと思えます。韓国のインタラクティブとも交流が出来ればと考えています。(亀次期インタラクティブ委員長)

Q：韓国との交流の中で、日本と韓国の学生とでは歴史認識のギャップが大きいと思えます。そのギャップを埋めないと本当の意味での交流にならないと思えますが、何か試案はありますか？(岩出RC)

A：ギャップは埋める必要はないと感じています。いろんな意見があるとは思いますが、お互いの意見を聞いて話し合うことによって、新しい交流が出来ていくと思えます。

(亀次期インタラクティブ委員長)

A：海外に行くとインタラクティブ同士、ローターアクト同士にグループを組んで活動してもらっています。過去にも中国・韓国の場合は少し心配もありましたが、私たちが危惧する必要もなく、すぐに仲良くなっていました。日本の過去について日本人の学生が知らなかったことを、逆に教えてもらったりすることもありますし、またいろいろ教えてあげたりもして、私たちが大人の目線で考えるよりもずっと早く打ち解け交流しています。(瀧次期アドバイザー)

A：韓国では若い女性でも、「加藤清正、豊臣秀吉はけしからん。」と言います。これは教育によるものだと思いますが、現在の日本と韓国の間で加藤清正や豊臣秀吉を論じてどうなりますか。もっと大切なことがあるはずです。(平原パストガバナー)

Q：私は在日韓国人の3世で、日本で生まれ育ちました。歴史認識の違いは確かにあると思えます。子どもの頃に父親から韓国側から見た日本の本を渡されました。それを読み終えると次に、日本側から見た韓国の本を渡されました。実際に起こったことは1つで、取り方の違いはあるが、自分で確認して自分で考えなさいと教わりました。私もギャップを埋める必要はないと思えます。

ライラセミナーについてですが、先日、息子共々参加させて頂きました。青少年指導者養成プログラムということですが、本当にリーダーを養成するためのものだったのかな、という

思いがあります。まず人として基本的なことを教えてあげる必要があるのかなと感じました。一昨年には娘も参加しています。最初は嫌々参加しましたが、帰ってきてまず私に言ってくれたのは「行かせてくれてありがとう。」という言葉でした。それから娘は積極的になり、変わりました。それで今回も参加しましたが、募集に関してただ人数を集めるのではなくて、面接を行う等の方法は考えられないのかと思います。 (田辺RC)

A：本当はライラの参加者を選考したいと思っています。申込期限を過ぎて、ライラの直前に申込があったり、当日に突然来たりすることもあります。そのような方でもプログラムに参加して、大変素晴らしい意見を述べてくれたりします。全国ライラ研究会に行きますと、前もって約200名を募集して最終的に70名に絞って、ホテルで勉強会を行ったりするところもあります。

“指導者養成プログラム”という日本語訳は、間違いではないかと思っています。“AWARD”には、“審査する。一緒に何かをする。”という意味合いがあります。指導者と言いながらも、家に帰ってから自分で気づき自覚して、新たに何かを考えて頂くための研修と考えています。例えば講演中に態度が悪かった者も、その後の1分間スピーチによると、何か自分なりの成果を見つけていると思います。10年程前の感想文には、「無理やり連れて来られて、無理やり嫌なことをされた。」といった内容が3分の1位ありました。ここ4～5年前からは「貴重な経験をした。」という内容が増えてきました。ライラに参加したからすぐに素晴らしい人になる、ということはないかもしれませんが、長い目で見てあげて頂きたいと思います。 (瀧次期アドバイザー)

A：次年度は今年度よりも厳しいことも考えています。ご意見ありがとうございます。

(丸山次期青少年・ライラ委員長)

Q：瀧委員長は新世代部門の話になると元気になられますが、クラブではいかがでしょうか？

(大阪金剛RC)

A：多くのクラブでは、一生懸命に活動されている方は2割程かと思っています。周年事業の年度になりますと、その2割の割合が8割程になってきます。そして周年事業が終わった翌年はまたパワーダウンしてしまいます。私のクラブには私のように年中パワーがある者がクラブには32人中5～6人おられます。以前は72名でしたが、その当時に比べますと現在の方が地域への奉仕はよく行っていると感じます。 (瀧次期アドバイザー)

Q：ローターアクトについて、4地区情報交流交換会の日程をお教え下さい。当クラブもローターアクトの提唱クラブですが会員の増強に悩んでいますので、ご推薦をお願いします。また予算的にも苦しい状況ですので、ご意見を頂きたいと思います。 (泉大津RC)

A：私のクラブでもローターアクトをお世話しています。昨年は11名がアクティブに活動していましたが、今年は3人です。なかなか増強も難しい状況です。IM単位で協力して努力して頂きたいと思います。 (瀧次期アドバイザー)

A：交換会の日程ですが、次年度は来年になると思いますが現在まだ未定です。

(中西次期ローターアクト委員長)

## 総 評

(平原 祥彰 カウンセラー・パストガバナー)

3人の委員長のお話を聞いてよくお解りになりましたか？こちらから見ておりますと、よく解らなかったという方もおられるように感じました。しかしこれからですから、結構です。青少年についての活動を、どのように先輩方が関わってこられたかを良く検証して下さい。どうでも良いことならば、無理にやらなくても結構です。しかし“どうしてもやらなければならない”ということならば、我々が置かれている今の状況の中で何が出来るかを考えて下さい。クラブの人数によって出来ることは違います。身の丈に合った活動を行えば良いと思います。また近隣と協力するのも1つの方法です。

皆さんはクラブの代表ですから、この会議で何をしてどのように感じたかを報告して下さい。青少年は我々の宝であり、我々の未来です。皆さんと共に力を合わせて、青少年の未来を開きましよう。

